

Title	大手スーパー・チェーンの多店舗化行動に関する研究
Sub Title	
Author	懸田豊(Kakeda, Yutaka) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0076">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0076</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 懸 田 豊

主査 関 谷 章 助教授

副査 和 田 充 夫 助教授

青 井 倫 一 助教授

所属ゼミナール 関 谷 章 研

## 大手スーパー・チェーンの多店舗化行動に関する研究

大手スーパー・チェーンの成長は、その多店舗化行動による規模の拡大におうところが大きい。そして、大手スーパー・チェーンの多店舗化行動は (1) 中小小売商とのコンフリクト (2) 大手スーパー・チェーン間の競争の激化という状況をつくり出し、現状で大手スーパー・チェーンは競争コンフリクトと社会的コンフリクトの調整問題に直面している。

本研究では、大手スーパー・チェーンとしてダイエー、イトーヨーカ堂、西友ストア、ジャスコ、ニチイ、ユニーの6社を選定し、その多店舗化行動の実態と成果についての分析を行う。

第1章ではわが国小売市場を概観し、第2章において小売競争理論を再検討することによって、多店舗化行動の背景をみる。第3章以下で大手スーパー・チェーンの多店舗化行動実態を考察するが、第3章では特に、各社の多店舗化行動の特性を分析し、第4章で個々の店舗について分析する。第5章では大手スーパー・チェーンの多店舗化行動を評価し、その効果を測定する。第6章は結論であり、今後の大手スーパー・チェーンの多店舗化行動を予測し、解決すべき課題を提示する。

以 上